

第5回 首都高速道路の塗装塗替え工事による火災事故再発防止委員会

議事要旨

1. 委員会審議の経緯と鋼橋塗装塗替え工事の状況
 - ・これまでの委員会審議の経緯と鋼橋塗装塗替え工事の状況について、確認がなされた。
2. 火災事故再発防止策の適用状況と検証・評価
 - ・これまでに行われてきた再発防止策の適用状況と検証結果及び評価について、確認がなされた。
 - ・再発防止策の適用状況と検証・評価について、以下の意見があった。
 - 受注者側が複層構造になっている状況や、急遽の新規作業員の増員なども考慮した安全教育の仕組みが必要。
 - 現場に応じた訓練は有効であり、専門家の指導を仰ぐと良い。
 - 難燃シート、防災シートなどが現場で正しく使われるように、性能をわかるようにしておくが良い。
 - 火災安全対策の履行状況の点検を定期的、継続的に行っていく必要がある。
 - 安全対策に懸念が発生する危険性をなくすために、無理のない適正な工期・工程を、発注者・元請けなどの現場管理体制全体で理解しておく必要がある。
3. 新工法・新材料の適用状況と検証・評価
 - ・これまでに行われてきた新工法・新材料の適用状況と検証結果及び評価について、確認がなされた。
 - ・新工法・新材料の適用状況と検証・評価について、以下の意見があった。
 - 従来工法を新材料・新工法と同じ感覚で扱わないように、安全に関する正しい理解、管理が必要。
 - 作業環境の厳しくなる夏場のクールダウンなどのケア、素地調整における活膜部の判定、水性塗料の使いやすさ、施工能率の改善などが新材料・新工法においても課題である。

4. 塗装塗替え工事における再発防止策の最終とりまとめ（案）

- ・再発防止策の最終とりまとめ（案）について、以下の意見があった。
 - 実施する、指導するというアクションに対して、現場的にどうだったか、うまくいかなかったところの理由を評価し、対策にフィードバックすることが重要。
 - インシデントについても、表面的な理由だけでなく根幹にあるものを探り出し、それを踏まえ、運営段階で質的にも量的にもレベルの高いものに改善していく仕組みが欲しい。
 - 過去に起きた災害の事例を見ながら、どういうふうに今後の作業を行ったら良いかを検討することが大事。
 - 再発防止対策が形式的な安全対策とならないよう、PDCAサイクルを循環させる体制が必要。
 - 風通しの良い現場は、安全であることが多いとの経験から、現場の安全は物理的なもののほかに、発注者・元請け・作業員に至るところまで、そのような雰囲気を作ることが大事。
 - 本委員会で審議した内容を、社内の会議等で引き継いでもらい、引き続き確認等を継続できる体制を作って欲しい。
 - 将来のために、ICT技術等の新しい方法を取り入れて、今後も対策を進めてほしい。
- ・首都高速道路の塗装塗替え工事における火災事故再発防止策の最終とりまとめの案について、これを「最終とりまとめ」として首都高速道路株式会社に提示することが承諾された。

以 上